

2学期が始まった。139名全員が登校し、元気な姿を見せてくれたのが何よりうれしい。始業式の校長の話で、子供たちと約束したことがある。

「もし長瀬小学校の先生や友達から、コロナウイルスに感染した人が出ても、絶対にその人を悪く言ったり、差別してはならない」ということである。

2学期には修学旅行、野外活動、社会見学など子供たちが楽しみにしている行事が予定されている。それもあくまで、今日現在の感染状況下において、感染対策を万全にして、十分注意をしたうえで慎重に実施する前提である。明日はどうか分からない…。

対策をしたつもりでも「誰でも・どこでも・なぜか知らずに」感染してしまうのがコロナ感染である。

万が一、本校で感染が確認されれば、一定期間の休校、そして各行事は中止を検討せざるを得ない。感染した教職員・児童（保護者が感染したら児童も濃厚接触者となる）が、大変な思いをしてコロナウイルスと命がけで治療に専念したのに、周囲の心ない言動で精神的にも傷つけられる事態だけは、何が何でも避けなければならない。

「この約束を破る人がいたら、校長先生はその人を簡単には許しません」とまで話した。

私たちは「コロナ、大変だったね。もう大丈夫？」と言える子供たちに育ててきたつもりである。

非常時は「ない」ほうがいいが、非常時こそ日頃の「教育・しつけ」があらわになるのである。